

驚くべき主の勝利

2023年3月12日

使徒の働き 19章8～20節

序：第三次伝道旅行のメインの宣教地はエペソ

第二次「」の帰路、短時間立ち寄った 18・19～21

慌ただしく始まった第三次旅行、アンティオキアから内陸幹線道路を通り、途中ガラテヤ、フリュギア地方の聖徒たちを力づけ、一路エペソへ

エペソでは(1)信者ではあったが、聖霊が降られ、信者に内住なさることを知らなかった12人に出会って、聖霊のバプテスマを受けたことを確認した

次の3ヶ月

I. ユダヤ人の会堂にて

ユダヤ人+神を敬う異邦人に語り、論戦を展開、説得を試みた

旧約の預言

⇒イエスが約束のメシア（十字架上の身代わりの死+体ごとの復活+昇天+着座）として来られたことで、神の国は到来した

パウロへの反対者（心かたくな、聞き入れず、公然とイエス・キリストの救いの道をののしる）

II. ティラノの講堂にて

反対者から身を引いた

信者たちも退かせて

新しい場所を借りて（11時～16時 仕事の合間・休憩時間に）

毎日、主のことばを宣べ伝えた（2年間）

↓

結果：アジアに住むユダヤ人と異邦人のすべてが聞いた

黙示録の2～3章の7つの教会も？

信じる

信じないまま

III. 神が行われた奇跡

(1)みことば — 驚くべき奇跡（双方とも神から出ている証明）真正性
イエス・キリストの宣教の仕方

(2)奇跡を行われたのは神

パウロの手は用いられたツール・手段

(3)どのような奇跡か？

①病気からのいやし

②悪霊を追い出す

(4)どのような方法によってか？

①パウロが身につけていた手ぬぐいや前かけ（仕事をしている時のいでたち）をはずす

②それらを病人に当てる

IV. ユダヤ人の魔よけ祈祷師

(1)私利私欲、御利益目的で、イエスの御名を用いたユダヤ人の祭司長の7人の息子

- ①彼らは普段、悪霊の力で魔よけ、呪文を行っていた
- ②ために、主イエスの御名をとねえた（即興の借物＝冒瀆）
- ③悪霊はイエスもパウロも恐るべき存在（戦えば自分が負ける）と知っていた
” スケワと息子たちは知らない（偽物、紛れ込んだもぐり？ 正体不明）
- ④悪霊につかれた人が凶暴になって、彼らに飛びかかり負傷させ、打ち負かした
彼らは退散、不名誉な大失敗

結果：エペソの住人たち全員に知れ渡った、恐れが生じ、主イエスの御名賛美

V. エペソのリバイバル

(1)すでに信仰を持っていた人たちが自分の悪い行いをさらけ出して告白

- ①主イエスの御名への恐れ
- ②魔術・魔よけ祈祷師とのかかわり
- ③神の前での恥ずべき汚れた生活（不品行、偶像礼拝）

(2)魔術を行っていた者たちが回心

魔術をやめ、多くの書物を皆の見ている前で焼き捨てた（惜しまず、きっぱり）
今までの罪深い、闇の生活と決別

VI. 第5回目の教会進展の報告

(1)人々を魔術や悪しき生活から解放する力ある神のことばと真正性を証明する奇跡が
相まって福音が前進、教会が設立・拡大して行く

VII. 結び

(1)出処進退は誤りなく、柔軟に判断する（ユダヤ人会堂⇒ティラノの講堂）

(2)神は敢えて、回心した者を通してご自分の御業をなさる（パウロの手によって）

(3)奇跡的な力は生きて働かれる神への信仰に应えて現される
信仰と無関係に奇跡的な現象を追い求めるのは誤り

(4)イエスの御名を唱えさえすれば、自動的に奇跡が起きるのではない
信仰によって、神の力がイエスの御名を通して働かれる（祈りも同じ）

(5)神への信仰・敬虔を利得の手段と考える者たちの間には紛争が生じる
テモテ I 6・5
御利益信仰・信仰を自分の願望達成の手段と考えるなら、破綻する

(6)真の悔い改めには具体的な行動が伴う（魔術をしていた人が本を焼き捨てた）

(7)リバイバルの前には、信者や教会の認罪と悔い改めが先だって在る